



ゼロカーボン新聞【第5号】

発行：八千代市経済環境部環境政策課ゼロカーボンシティ推進室
☎047-421-6767

令和7年11月



最新号

ゼロカーボンに関する情報をお届けする「ゼロカーボン新聞」の第5号を発行しました。是非ご覧いただき、家庭や業務へ反映するなど、ご協力いただきますようよろしくお願ひいたします。



みんなで目指そう 2050年CO₂ゼロ

ゼロカーボンシティ宣言！
八千代市



→ 2050

2027年末までに一般照明用の蛍光灯の製造・輸出入が禁止されます

水俣条約締約国会議の決定を受け、水銀使用製品である蛍光灯は2026年1月より順次、製造と輸出入が禁止されます。現在使用している蛍光灯をそのまま使用することや、店頭にある在庫品を購入することが禁止されるわけではありませんが、これを機に計画的にLED照明への切り替えをお願いします。

(環境省チラシより加工)



電球形蛍光ランプ (※1)



コンパクト形蛍光ランプ



直管形蛍光ランプ (※2)



環形蛍光ランプ (※2)

2026年1月1日
より禁止

2027年1月1日
より禁止

2028年1月1日
より禁止

2028年1月1日
より禁止

※1 電球形蛍光ランプのうち30Wを超えるものは2027年1月1日から禁止されます。

※2 ハロゲン酸塩を主成分とする蛍光体を用いたものは2027年1月1日から禁止されます。

LEDってどういったところが良いの？



「LEDは良い」と漠然と理解している人も多いかもしれません、実際のところ、LEDはどういったところが良いのでしょうか？

LEDの大きなメリットは、何と言っても消費電力が低いことです。例えば、同じ大きさのシーリングライトを、蛍光灯からLEDに替えると、消費電力は約51%低くなります。

さらには、

- ◀ 電気代は年間約2,000円おトクに！
- ◀ CO₂排出量は年間約29kg削減！

参考 Web : デコ活アクション / LIGHTING ACTION for 2030

と、お財布にも地球にもやさしい効果が期待できます。

家庭からの年間CO₂排出量（電気・ガス・灯油の合計）は1世帯あたり約2470kg-CO₂*と言われていますので、シーリングライトを4台交換した場合、年間約4.6%もCO₂を削減することができます！



*出典：令和5年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査結果について（確報値）（環境省）

窓断熱リフォームをして健康で快適な住環境に！

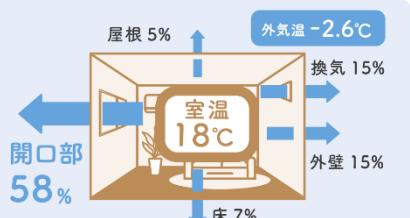


住宅の熱は、全体のうち約6～7割が窓等の開口部から逃げてしまう、または入ってきてしまいます。快適な温度環境で過ごすには、冬は家の中の暖かい空気や熱を外に逃がさない、夏は外の熱い空気や熱を家の中に入れないことが重要です。

冬の暖房時の熱が

開口部
から
流失する割合

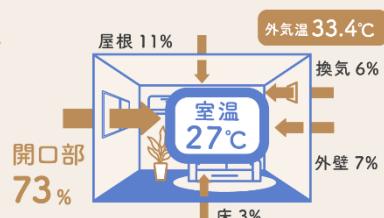
58%



夏の冷房時(昼)に

開口部
から
熱が入る割合

73%



※参照：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会/平成11年省エネ基準レベルの断熱性能の住宅での試算例

そこで、「内窓設置」や「ガラス交換」といった窓の断熱改修を行うことで、住宅の熱の流入出を抑えることができ、ご自宅を今よりも健康で快適な住環境にアップグレードすることができます。



窓を断熱化するメリット

メリット 1



家族やペットの
健康対策に

温度環境がこれまでより快適になるので、風邪をひきにくくなったり、室内での熱中症対策になるなど、家族やペットの体調管理に役立ちます。

メリット 2



「ヒートショック」
等のリスクを低減

脱衣所やお風呂場と他の部屋の温度差が小さくなると、入浴事故(ヒートショック)のリスク低減につながります。

メリット 3



結露を減らす

結露が減るので、カビ・ダニの発生を防ぎ、部屋がキレイで衛生的になり、住宅を長持ちさせられます。

メリット 4

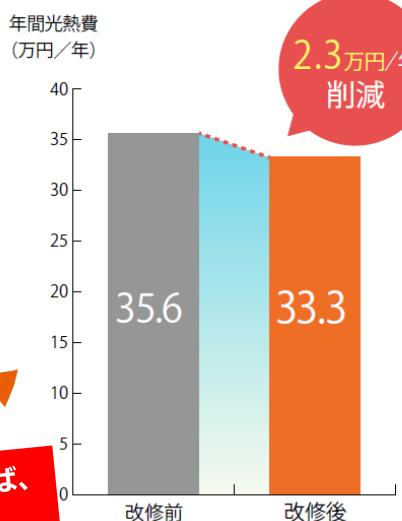


エネルギー価格
高騰への対応

室内と室外の熱移動が少なくなり、冷暖房をこれまでより弱くしても効きが良くなるので、結果的に光熱費を抑えることができます。

冷暖房のエネルギーが減れば、
当然 CO₂の削減効果も！

※昭和55年当時の省エネ基準で建築された住宅
S55基準※の戸建住宅における削減効果

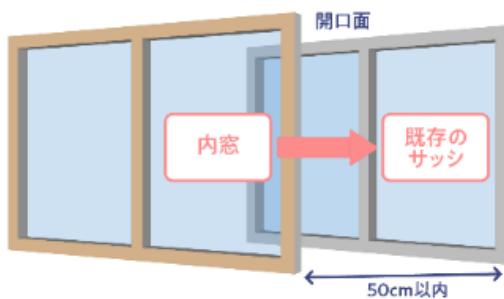


(環境省チラシより加工)

窓断熱にはどんな工法があるの？

窓を断熱化すると言っても、具体的にどのような工法があるのでしょうか？

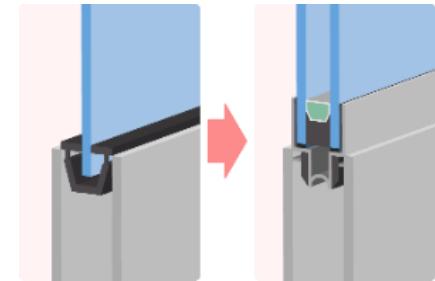
例1 内窓設置



既存の窓を残したまま、室内側に内窓を設置する

- メリット 費用が比較的安価・工期が短い
△デメリット 2つの窓の開閉が必要となる

例2 ガラス交換



既設のサッシのガラスのみ断熱ガラスに交換

- メリット 費用が比較的安価・工期が短い
△デメリット サッシ部分に結露の可能性あり

比較的安価で工期が短く手軽に改修できる工法をご紹介しましたが、他にも、費用は少し高くなりますが、窓枠を残してサッシごと交換する「外窓交換」といった工法もあります。家計や家の造りに合った工法で、窓の断熱改修を是非検討してみてください。

省エネ設備などに使える補助金

八千代市では、エネファームや蓄電システム、EV・PHV の導入や、今回ご紹介した窓の断熱改修等を実施する人に補助金をご用意しております。※対象要件があります

みなさんも地球にやさしい設備を導入し、ゼロカーボンに取り組んでみませんか？



窓にも
使える♪



補助対象設備と補助金額の例

家庭用燃料電池システム エネファーム	10万円
定置用リチウムイオン 蓄電システム	7万円
窓の断熱改修	上限 8万円 (補助対象経費 × 1/4)
EV(電気自動車)・PHV	15万円 (太陽光パネル・V2H併設の場合)

※V2H充放電設備、集合住宅用充電設備等の補助もあります

お知らせ



ヤチョ・ゼロカーボンGXセミナーを開催します

産業部門における省エネルギー化・脱炭素化を図りつつ、地域における経済の循環およびGX（グリーン・トランスポーテーション）の促進を図ることを目的としたセミナーを開催します。地域産業から、脱炭素と一緒に考えてみませんか？

日時 2026年1月22日(木) 13:30～16:10

基調講演 「気候変動時代のGXと中小企業の脱炭素経営」
(東京大学先端科学技術研究センター 谷口 信雄 氏)

支援策紹介① 「これから始める脱炭素経営戦略～地域共生に転換するソーラーシェアリングの取組～」

(千葉エコ・エネルギー株式会社 細山田 直誠 氏)

支援策紹介② 「千葉県の支援策について」

(千葉県中小事業者等脱炭素化支援センター)

会場 セントラルスポーツ生涯学習プラザ
3階 第1・第2研修室



環境政策課の公用車に電気自動車が導入されました!!



環境政策課で保有する公用車として、2025年10月から**電気自動車**が1台導入されました。

車種は三菱 MINICAB EV で**航続距離は約180km**であり、市内の公共施設を訪問したり、現地確認に行ったりするには、十分な航続距離です。



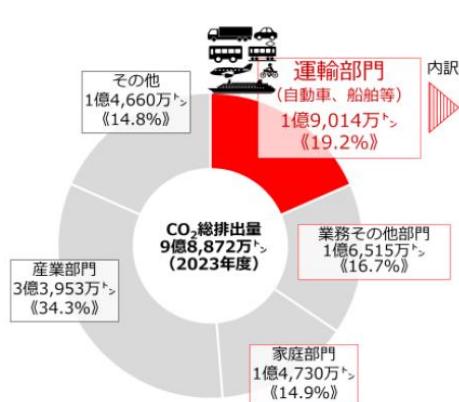
環境政策課が導入した電気自動車

電気自動車には、写真のように「ゼロカーボンシティ宣言！八千代市 みんなで目指そう 2050年CO₂ゼロ」のラッピングを施し、市民の方々へのゼロカーボンについての周知・啓発を行っています。

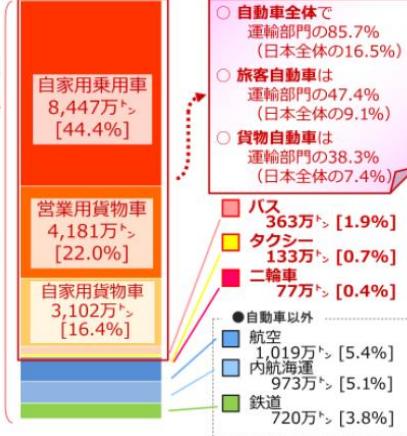
また、八千代市では、八千代市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定しており、令和12年度までに、代替できる電動車がない場合を除き、公用車の50%が電動車（EV、HV、PHV、FCV）になることを目標としています。

自動車のCO₂排出状況等について

我が国各部門におけるCO₂排出量



運輸部門におけるCO₂排出量



脱炭素社会実現に向けて、自動車の電動車への切替えが求められていますが、自動車は二酸化炭素の排出量にどのくらい影響しているのでしょうか？

2023年度における日本のCO₂排出量は約10億トンですが、その内の約19%を運輸部門の排出量が占めています。そして、その約86%を自動車が占めています。

これらのことから、普段乗っている自動車を電動車に変えて、太陽光などの再生可能エネルギー由来の電力だけで賄うことができれば、脱炭素社会の実現に大きく貢献することができます。

みなさんも車の買替えなどのタイミングで、電動車への切替えを検討してみてください。

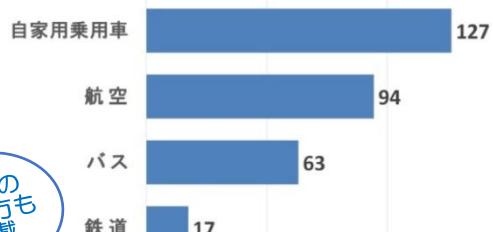
とは言え、電動車を導入するのは、ハードルが高い話だと思います。そこで二酸化炭素排出量の少ない輸送手段を意識的に利用することも大事になってきます。

右の図のグラフを見ると、自家用乗用車に比べ、鉄道やバスの二酸化炭素排出量が圧倒的に少なくなっています。

まずは、公共交通機関を積極的に利用するところから始めてみるのはいかがでしょうか。



輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



CO₂排出原単位[g-CO₂/人km](2023年度)

出典：中央の図・右下の図ともに国土交通省HP